

【道路事業（県事業） 事後評価審議資料】

○事後評価実施箇所一覧表	・・・p. 1
○事後評価箇所表	・・・p. 2
○説明資料（パワーポイント）	
③ 道路改築事業	・・・p. 4
「一般県道 上野関線 大矢田工区」	

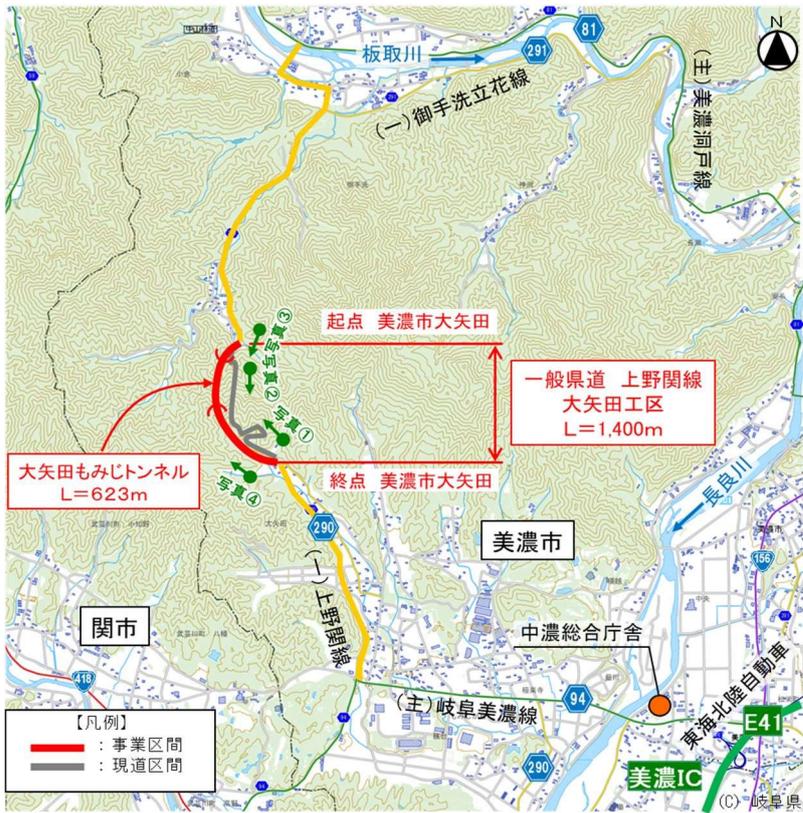
令和6年度 事後評価実施箇所一覧表 2月12日審議箇所

[県土整備部 道路建設課]

番号	担当課名	県事業		事業採択年度	完了年度	全体事業費 (百万円)			事業名	路線・地区・河川等	実施箇所 (市町村名)	対応方針(案)			備考
		補助・ 交付金	県単			上段：当初 下段：最終	今後の事後評価の 必要性	改善措置の 必要性				新規事業へ適用すべき留意点			
	道路建設課	○		H15	R4	2,000			道路改築事業	一般県道上野関線 大矢田工区	美濃市	今後の事後評価の 必要性	改善措置の 必要性	新規事業へ適用すべき留意点	
						2,628						今後の事後評価の 必要性	改善措置の 必要性	新規事業へ適用すべき留意点	施工中の周辺住民への配慮等、環境に配慮した事業の実施を推進していく。

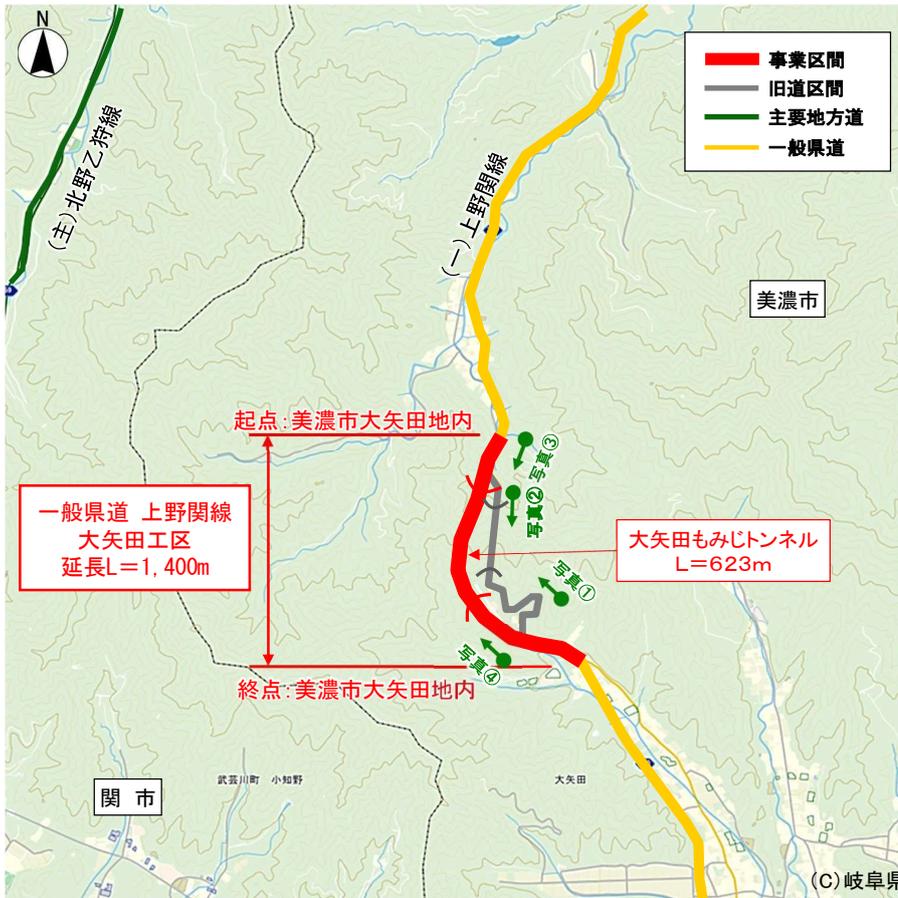
令和6年度事後評価箇所表

担当課〔道路建設課〕

番 号	3	事業名 (路線・河川名等)	道路改築事業(交付金事業分) (一) 上野関線 大矢田工区
事業実施箇所	美濃市 <small>おやだ</small> 大矢田 地内	全体事業費	(当初20億円) 26億円
採択年度	平成15年度	完了年度	令和4年度
事後評価の実施基準	事業完了後一定期間(5年以内)が経過した事業		
事業目的	<p>一般県道上野関線は、美濃市上野を起点とし、関市小瀬に至る延長約11.9kmの路線で第二次緊急輸送道路に指定される重要な路線である。</p> <p>当該事業はこのうち1.4kmの区間についてバイパスを整備するものであり、災害時に有効に機能するネットワークの確保、岐阜市方面や高速道路へのアクセス性向上、消防・救急活動への貢献、観光振興への貢献を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：1,400m、車道幅員：2.75m×2車線、歩道幅員：2.50m(片側)</p> <p>主要構造物：大矢田もみじトンネルL=623m(トンネル内歩道幅員：2.0m(片側))</p>		
概要図	 <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-end;"> <div style="margin-bottom: 5px;">写真①: 整備前(旧道)</div>  <div style="margin-bottom: 5px;">写真②: 整備前(旧道)</div>  <div style="margin-bottom: 5px;">写真③: 整備後</div>  <div style="margin-bottom: 5px;">写真④: 整備後</div>  </div>		

評価結果	
① 住民参加・協働による効果	<p>○地元の高校生（東海工業専門学校生徒）や地域住民を対象に現場見学会や大矢田もみじトンネルの開通式を実施し、事業に対する理解を深めていただく機会を設けた。</p>
② 事業の効果	<p>○災害時に有効に機能するネットワークの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般県道上野関線は第二次緊急輸送道路に指定されている。 ・整備により災害や救急活動時に有効に機能するネットワークを強化し、緊急輸送道路の信頼性を強化した。 <p>○岐阜市方面や高速道路へのアクセス性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乙狩・上野地区周辺には工場が立地し、美濃市の製造品出荷額は増加傾向である。 ・整備により、東海北陸自動車道 美濃ICへのアクセス性が向上し、運送の効率化に寄与した。 <p>○費用対効果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B/Cは1.9あり費用対効果がある。
③ 環境面への配慮	<p>○長寿命かつ低消費電力であるLED照明を新設照明灯に採用し、蛍光ランプを用いた場合に比べ環境負荷を低減するなど、環境に配慮した。</p>
④ 事業を巡る社会経済情勢の変化	<p>○東海環状自動車道の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海環状自動車道 関広見IC～山県IC間と大野神戸IC～大垣西IC間が令和元年度に開通。その後も山県IC～本巣IC間は令和7年4月6日、本巣IC～大野神戸IC間が令和7年夏頃にそれぞれ開通する見込み。 ・東海環状自動車道が全線開通した際には、関西方面から（一）上野関線周辺へのアクセス性が向上し、物流の効率化が期待できる。
⑤ 利用者・地域住民等への効果	<ul style="list-style-type: none"> ・「所要時間の短縮」や「運転の快適性」の項目で約8割が効果を実感。 ・「災害時の通行確保の安心感」に関する項目で約6割が満足と回答。
⑥ 対応方針（案）	<p>○今後の事後評価の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の段階では必要なし。 <p>○改善措置の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の段階では必要なし。 <p>○新規事業へ適用すべき留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工中の周辺住民への配慮等、環境に配慮した事業の実施を推進していく。

位置図 2

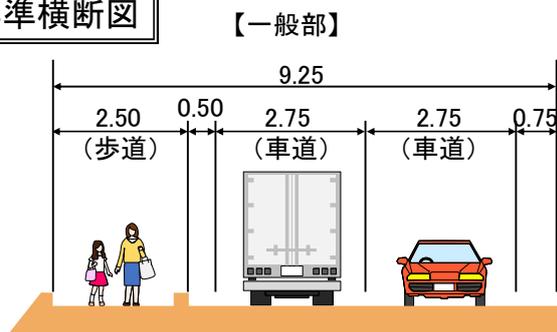


2

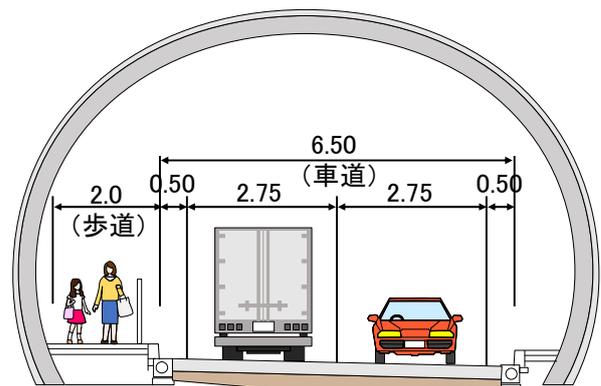
事業概要

- 起 終 点 : ^{みのしおやだ}美濃市大矢田 地内
- 全体延長 : 1,400m (トンネル延長 L=623m)
- 総事業費 : 約26億円
- 事業着手 : 平成15年度
- 完 成 : 令和4年度 (供用開始 : 令和5年3月4日)
- 幅 員 : 車道 2.75m × 2車線
歩道 (片側) 一般部 : 2.50m トンネル部 : 2.0m
- 道路規格 : 第3種第4級

標準横断面図



【トンネル部】



3

住民の参加・協働による効果

住民の参加・協働による効果

■地元の高校生を対象にした現場見学会や、大矢田もみじトンネルの開通式を開催し、事業に対する理解を深めていただく機会を設けた

■地元の高校生や地域住民を対象にした現場見学会や開通式を実施

東海工業専門学校 見学会（令和2年1月29日）

大矢田もみじトンネル 開通式（令和5年3月4日）



見学会では地元の高校生や地域住民を対象に、現場会議室でトンネルの構造・進捗状況などを説明し、トンネル坑内の視察を行いました。

大矢田もみじトンネルの開通式では、地元の県議会議員や地域住民、工事関係者など多くの方が参加しました。

事業の効果①

災害や救急活動時に有効に機能するネットワークの確保

■一般県道上野関線は第二次緊急輸送道路に指定

■災害や救急活動時に有効に機能するネットワークを強化し、緊急輸送道路の信頼性や救急医療施設までのアクセス性が向上



事業の効果②

東海北陸自動車道 美濃ICへのアクセス性向上

- 乙狩・上野地区周辺は多くの工場が立地し、美濃市の製造品出荷額も増加傾向
- 各事業区間の整備により、東海北陸自動車道 美濃ICへのアクセス性が向上し、運送の効率化や地域産業の活性化に寄与



■乙狩・上野地区から美濃ICまでの所要時間*



整備前: (主)美濃洞戸瀬～国道156号経由
 整備後: (一)上野関線～(主)岐阜美濃線経由
 ※H27センサスペースの交通量推計結果をもとに算出

(一)上野関線の整備前は、道が狭く、トラックでのすれ違いができないため、(主)美濃洞戸瀬および国道156号を利用して、岐阜市や関西・関東方面に、製品を運んでいました。
 各事業区間の整備後は、国道156号や新美濃橋の渋滞している時には、(一)上野関線を利用するケースが増え、運送の効率化に繋がっています。

地元企業 (乙狩地区)

ヒアリング調査結果より

6

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 効果全体の約88%
- 走行経費減少便益 効果全体の約11%
- 交通事故減少便益 効果全体の約1%

投資的效果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.9$$

前回評価時
 (R1年度再評価)
 1.7

※費用便益分析マニュアル(令和5年12月 国土交通省)に基づき算出

7

環境面への配慮

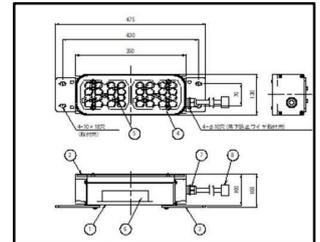
LED照明の採用による環境への配慮

- 長寿命かつ低消費電力であるLED照明を新設照明灯に採用し、蛍光灯を用いた場合に比べ環境負荷を低減



照明灯に
LED照明を採用

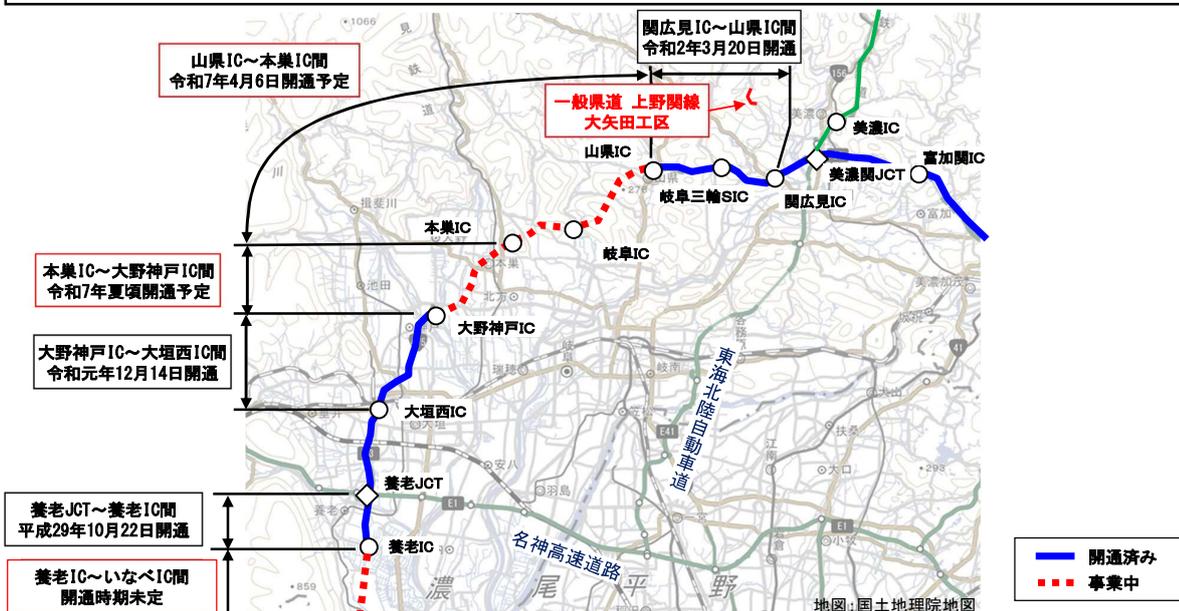
LED照明ユニット



事業を巡る社会経済情勢等の変化

東海環状自動車道の整備

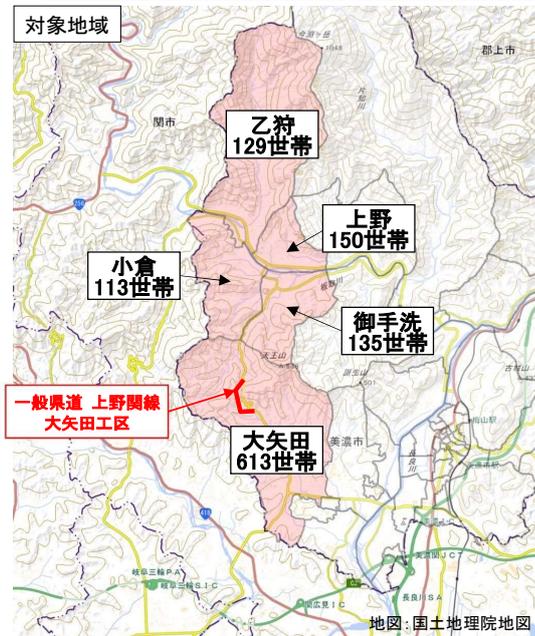
- 東海環状自動車道（西回り区間）において、令和元年度に関広見IC～山県IC間、大野神戸IC～大垣西IC間が開通。その後も令和7年4月6日に山県IC～本巣IC間、令和7年夏頃に本巣IC～大野神戸IC間が開通する見込み。
- 東海環状自動車道が全線開通した際には、関西方面から（一）上野関線周辺へのアクセス性が向上し、物流の効率化が期待できる。



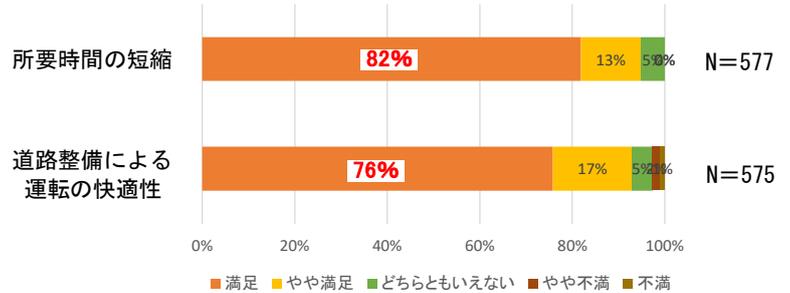
利用者・地域住民等への効果

アンケート調査結果

- 当該区間を利用する可能性がある地域住民（1,140世帯）を対象にアンケート調査を実施
- 所要時間短縮、道路整備による運転の快適性に関する項目では回答者の約8割が「満足」と回答
- 災害時の安心感に関する項目では約6割が満足していると回答



【整備に対する満足度】



【地域にとっての有益性】



対応方針(案)

◆今後の事後評価の必要性

- 「災害時に有効に機能するネットワークの確保」「消防・救急活動への貢献」「高速道路へのアクセス向上」などの事業効果を確認。
- 地域住民へのアンケートでも、満足度、有益性ともに高い評価を得ている。
→今の段階では、今後の事後評価は必要無し

◆改善措置の必要性

- 供用後、事故は発生していない。
→今の段階では、改善措置の必要無し

◆新規事業への適用すべき留意点

- 施工中の周辺住民への配慮等、環境に配慮した事業の実施を推進していく。